

Biz Cruncherの最新機能と2025年知財・情報フェア 出展内容

Biz Cruncherの最新機能（生成AIの活用）

Patent Result社の特許分析ツール「Biz Cruncher（ビズクランチャー）」は、近年AI機能の拡充により特許調査・分析業務の効率化と高度化を実現しています。特に**生成AI（Generative AI）**を活用した新機能が次々と追加されています^{① ②}。以下に主な最新機能と概要をまとめます。

リリース 日	新機 能	概要（生成AIの活用ポイント）
2024年9月 17日	AI質問応答（Q&A）機能強化	特許公報の内容についてチャット形式でAIに質問可能に。特に「 図面のAI解説 」「 発明のフローチャート化 」「 実施例の表整理 」が新たに可能となり、複雑な明細書や図面を平易に読み解けます ^③ ^④ 。これにより高度な技術内容の理解や分析レポート作成が容易になりました。
2025年6月 2日	まとめて分析機能	複数の特許公報を対象に一括分析 する機能を追加。選択した複数特許をAIが同時に解析し、関連する技術動向や共通点を抽出できます ^⑤ 。大量の特許を一度に処理できるため、調査時間の大幅短縮に繋がります。
2025年6月 30日	AI自動分析・レポート生成	選択した特許公報群（分析母集団）をAIが横断的に解析し、自動でレポート文章を生成 する新機能です ^{⑥ ②} 。従来は人手で時間を要した特許の集計・分類・レポート作成作業をAIが代行し、高精度かつ体系的な分析レポートを迅速に作成します ^② 。実際、Biz Cruncherのこの機能を用いて「CO2吸収・分離技術」に関する特許動向レポートを自動生成した事例では、業界上位企業や技術トレンドがわずかな時間で明確化されています ^{② ⑦} 。

上記のように、Biz Cruncherは生成AI（おそらく大規模言語モデルLLM）を組み込むことで**特許文書の理解支援や要約・分析結果の自動生成**を可能にしています。例えば**図面の内容をAIが解説**したり、**明細書中の技術要素を抽出してフローチャートや表形式で可視化**したりする機能は、特許の内容把握に要する時間を大幅に短縮するとともに、発明のポイントや実施例の比較検討を容易にしています^{⑧ ④}。また、複数文献の横断分析から**レポート（分析報告書）の自動生成**まで行えるため、調査担当者は戦略立案や考察に注力できるようになります^②。これらの最新機能強化により、「特許調査の効率化」「知財分析の高度化」といった効果が現場で実感されており、Biz Cruncherは国内シェアNo.1の特許分析ツールとして進化を続けています^⑨。特許庁審査官の拒絶理由に引用された特許を洗い出す分析機能の追加など、生成AI以外の面でも機能改善が図られており^⑩、総合的な知財情報プラットフォームとしてアップデートを重ねています。

2025年「知財・情報フェア&カンファレンス」での出展内容

2025年9月10日～12日に東京ビッグサイトで開催された「**2025知財・情報フェア&カンファレンス**」では、Patent Result社も出展者としてブースを構えました^⑪。同イベントは過去最大の158社が出展し、来場者

15,207名を記録する大規模なものとなり、特に**生成AI関連技術の展示が目立った**ことが特徴です¹²。Patent Result社の出展内容について、以下の観点から詳細に紹介します。

技術紹介・展示製品

Patent Result社はブースにて**特許分析ツール「Biz Cruncher」**を中心に技術紹介を行いました¹¹。Biz Cruncherの最新バージョンで実装された生成AI活用機能（前述の**AI質問応答**や**自動レポート生成**など）を来場者にデモンストレーションし、その効果をアピールしたとみられます。例えば、ブースでは実際の特許文書を使って**AIチャットによる特許内容のQ&A**を体験できたり、選択した特許集合から**ボタン一つで分析レポートが生成される様子**を紹介した可能性があります。実際、他社ブースも含め「**特許調査の効率化**」「**知財業務の自動化**」「**AI活用による分析の高度化**」といったキーワードが会場に溢れており、Biz Cruncherもそうしたコンセプトを前面に打ち出していたようです¹³。特許調査ツールとして定評のあるBiz Cruncherに最先端AIを組み込むことで、来場者に「**特許業務の未来像**」を示す展示となっていました。なお、Patent Result社はBiz Cruncher以外にも、自社が提供する**特許資産評価指標「パテントスコア」**や**受託分析サービス**等について案内していた可能性がありますが、公式にはブース紹介でBiz Cruncherがメイン製品として強調されています¹¹。

展示ブースでのイベント・講演内容

公式プログラム上ではPatent Result社による単独セミナー講演の記録は確認できませんでしたが、ブース内で随時ミニプレゼンやデモ解説が行われていたと考えられます。会場全体では**出展者プレゼンテーション**枠で86テーマのセミナーが実施され、「生成AIで変わる知財調査」などAI関連の講演が特に盛況でした¹⁴。Patent Result社も自社ブースに訪れた来場者に対し、Biz CruncherのAI機能による**具体的な分析事例**（例えば特定技術分野における競合特許動向の自動レポートなど）を紹介したものとと思われます。実際、Patent Result社は2025年8月に生成AIで作成した特許動向レポート（CO2吸収・分離技術）を発表しており²、こうした事例を用いて**AIが生成する分析レポートの有用性**をアピールした可能性があります。

また、展示会最終日にはPatent Result社主催の特別イベントとして「**Biz Cruncher交流会**」が開催されました¹⁵。これは**9月12日（金）17:00より会場内会議棟にて行われたユーザー交流会**で、Biz Cruncherの既存ユーザーや導入検討者が集い、情報共有やネットワーキングを行う場となりました¹⁵¹⁶。参加費無料で誰でも当日飛び入り参加可能とされ、Patent Result社ブース来訪者にも積極的に案内されていました¹⁷。交流会では開発元から最新技術の紹介や活用事例の紹介があり、参加者同士でも意見交換が盛んに行われたとみられます。こうしたイベント開催は、単に製品を展示するだけでなく**ユーザーコミュニティ形成や生の声の収集**を重視するPatent Result社の姿勢が表れています。

配布資料・ノベルティ

Patent Result社はブース来場者向けに各種資料を配布していたと思われます。具体的な配布物に関する公式情報はありますが、一般的に考えて**Biz Cruncherの機能紹介パンフレット**や**導入事例集**、さらには**最新AI機能の解説資料**などが用意されていた可能性が高いです。前述の**AI自動レポート生成機能による分析レポートのサンプル**（例えばCO2吸収・分離技術のレポート）も資料として提示・配布され、ツールの実力を示す材料となったかもしれません。² 実際、他社ブースでは生成AIを用いた特許要約結果を冊子にして配る例もあったため、Patent Result社も自動生成レポートを印刷したものや、スクリーンショットを載せたチラシ等を配布していた可能性があります。ノベルティグッズについては報道やSNS上で特筆されたものはなく、**実用的な資料提供**に力を入れていた印象です。他社ではキャラクターグッズ配布が話題になったケース（ぬいぐるみマスコット「イヌキオ」のブームなど）もありましたが¹⁸、Patent Result社は製品そのものの訴求に専念していたようです。

来場者の反応・評価

来場者からの反応としては、**生成AIを活用した特許分析ツールが多数登場したことへの驚きと関心の高さ**が各所で報告されています。実際、今年のフェアは「疑いようもなく生成AIが主役」であり、どのブースもAIキーワード一色だったとの声がありました¹³。Patent Result社のBiz Cruncherについて個別に言及したSNS投稿は多く確認できませんでしたが、会場全体の傾向として「**AIの普及を実感**」「**特許調査が劇的に効率化しそう**」といったポジティブな感想が相次いでいます¹⁹。来場者は実演を通じて、Biz Cruncherの自動分析機能やQ&A機能が「**特許読み込みにかかる時間を大幅短縮する（最大80%短縮との事例も）**」ことや²⁰、「**人間では困難だった大量特許の並列分析をAIが自律的にこなす**」様子に強いインパクトを受けたようです。また「**活気ある会場で有益な情報収集の機会になった**」との声も聞かれ²¹、Patent Result社ブースでもスタッフと来場者の活発な質疑応答が行われていたと推測されます。「AI搭載ツールが増えた一方でハルシネーション（幻影）のリスクも気になる」といった慎重な意見や、急速な技術進化に追いつく不安の声も一部にはありましたが²²¹⁹、概ね「**特許業務におけるAI活用の未来に期待が高まった**」という評価が支配的でした。主催者発表や業界メディアの総括でも、「**知財業務の未来を変えるAIツールへの注目度が非常に高く、来場者の満足度も高い展示会となった**」と評されています¹²¹⁴。総じて、Patent Result社のBiz Cruncherは**生成AIブームの中でも確かな実績に裏打ちされた信頼感**があり、来場者からは「既に導入している」「以前から知っている」という声も多く聞かれたようです。こうしたユーザー層に最新機能を直接アピールできたことで、同社にとっても有意義な出展となったと考えられます。

Sources:

- ・ Patent Result公式サイト「Biz Cruncher」新機能紹介³⁴²
- ・ Patent Result公式ニュースリリース¹⁵¹⁷
- ・ 知財・情報フェア公式サイト 出展者情報¹¹
- ・ 来場者によるイベントレポート¹³¹⁸
- ・ 業界メディア記事・イベント総括レポート¹²¹⁴¹⁹
- ・ その他関連ニュース・プレスリリース²⁰¹⁰

¹³⁴⁸ 【NEW】ー AI分析 新機能ー 図面解説・発明をフローチャート化・実施形態を表で整理 | 特許分析の特許・リザルト

<https://www.patentresult.co.jp/news/2024/post-21397.html>

²⁷ 【AIレポート】CO2吸収・吸着分離技術 | 株式会社特許・リザルトのプレスリリース

<https://www.dreamnews.jp/press/0000326474/>

⁵⁶⁹ 特許分析のビズクランチャー (Biz Cruncher)

<https://www.bizcruncher.com/>

¹⁰ 特許庁審査官引用分析を開発 ～ 特許分析ツール「Biz Cruncher」に ...

<https://www.dreamnews.jp/press/0000021638/>

¹¹ 知財・情報フェア & コンファレンス

https://www.expo-form.com/united2025/usr_list.php?exh=6

¹²¹⁴¹⁹²¹²² yorozuipsc.com

<https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/8fd734b2c9a4d59aa9b7.pdf>

¹³¹⁸ 知財情報フェア2025で感じたこと | AIの熱狂とIPランドスケープの静寂 | 塩谷綱正@イーパテント・アクティスー知財情報を組織の力に®

<https://note.com/tshioya/n/n693af7673e97>

15 16 17 『Biz Cruncher交流会』開催のお知らせ

～2025知財・情報フェア&コンファレンス最終日～ | 特許分析の Patent・リザルト

<https://www.patentresult.co.jp/news/2025/post-21530.html>

20 Amazon Novaを使った特許分析システムの処理コスト最適化

<https://aws.amazon.com/jp/builders-flash/202510/ai-patent-analysis-system/>